

これまでのWGでの主な議論

【日程】

- ・ 4月5日 第116回評価専門調査会「大綱的指針の改定WG設置」
 - ・ 4月～7月 WG開催（5回）
 - ・ 7月27日（本日） 第117回評価専門調査会「これまでのWGでの議論と改定の方向性」
- （以下、今後の予定）
- ・ 8月 第6回WGで議論
 - ・ 9月以降 評価専門調査会で議論
 - ・ 年内 総合科学技術・イノベーション会議で決定

【主な議論】

プログラム評価の実施状況の確認

- ・ 前回大綱的指針で導入した『プログラム評価』（参考）については、各省で適用されつつある例もあるものの、十分に浸透が図れているとは言えない状況。
- ・ 個別の研究開発課題と政策や施策の目的・目標との関連性を明確化し、アウトカムの創出を念頭に置いた『プログラム』という単位で、評価を実施していくことは引き続き重要。

政策評価との関係の整理

- ・ 政策評価法と大綱的指針のプログラム評価を比較・整理したところ、「前回大綱的指針におけるプログラム評価が意図していること」と「政策評価法に基づく政策評価が意図していること」は、政策・施策の目的・目標の下で研究開発を推進する側、政策立案する側等を評価するといった点で基本的に同じ。
- ・ 政策評価等と研究開発評価との関係性が必ずしも明示されておらず、複数の評価体系がある中で、各省庁の立場からみると同じような評価が繰り返し行われる要因の1つとなっている。

最近の新たな取り組み

- ・ 内閣府におけるSIPやIMPACTにおける評価、JSTにおける「ALCAにおけるステージゲート」など、前回大綱的指針決定以降の新しい研究開発評価の試みを確認。
- ・ 研発法人の評価指針や文部科学省の最新の研究開発評価指針は、第5期科学技術基本計画の内容を先取りした内容も含んでいる。

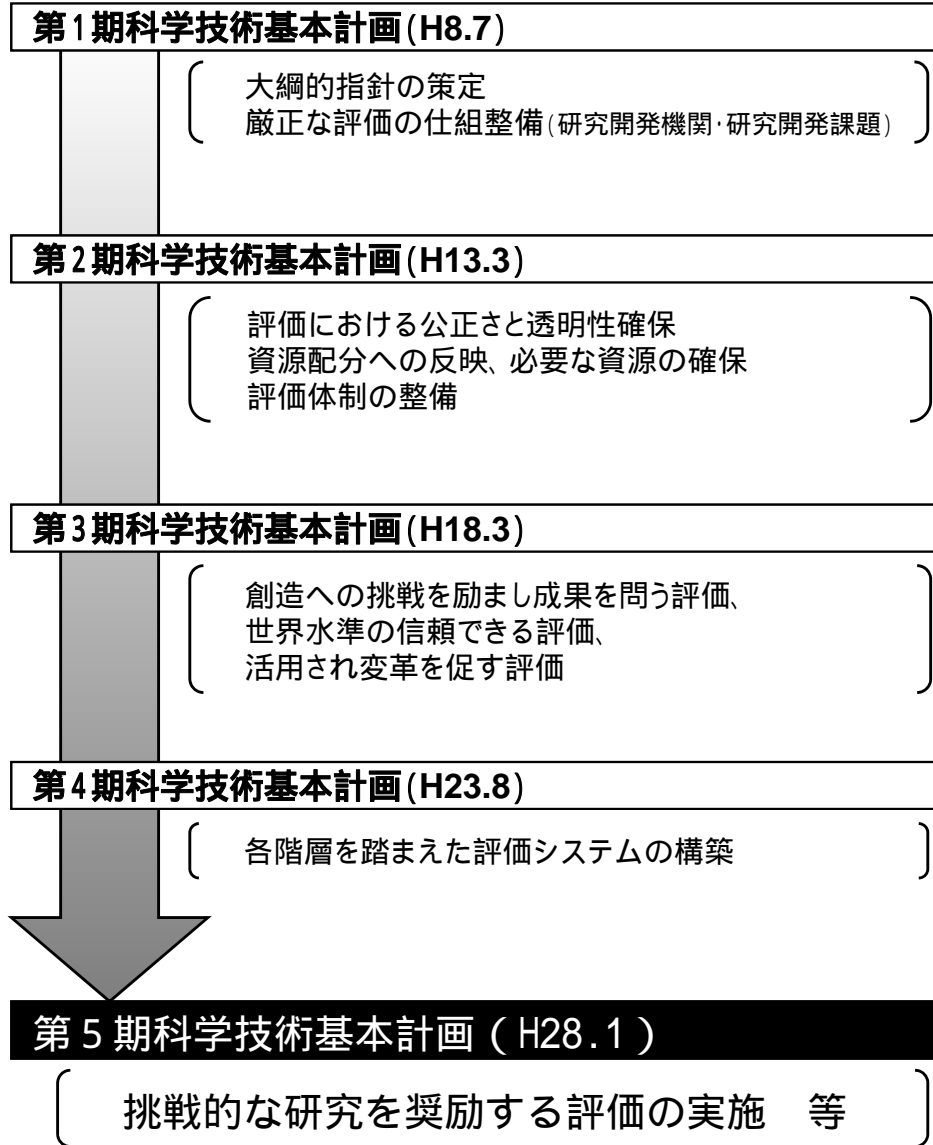
各省からの主な意見

- ・ 「プログラム」、「目的と目標」、「PDとPM」等、用語の定義の明確化。
- ・ 他の府省の研究開発評価に係る有益な情報の府省間での共有化。
- ・ 「評価疲れ」に対応するための、評価の自由度の担保。 等

大綱的指針の改定経緯

[資料1 - 1参考]

科学技術基本計画の変遷



国の研究開発の大綱的指針の改定の経緯

